CASBEE® あいち　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

1-1 建物概要

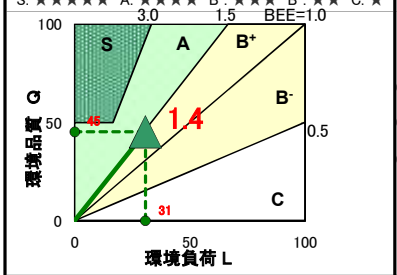
建物名称	(仮称)meLiV太田川新築工事	階数	地上5F
建設地	愛知県東海市	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居地域	平均居住人員	93 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月　予定	評価の実施日	2018年6月15日
敷地面積	2,466 ㎡	作成者	藤井 優介
建築面積	557 ㎡	確認日	2018年6月15日
延床面積	2,162 ㎡	確認者	藤井 優介

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

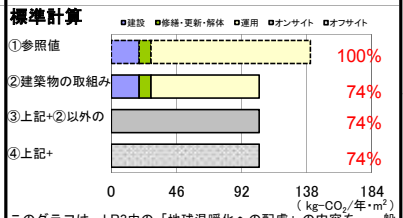
BEE =1.4 ★★★☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



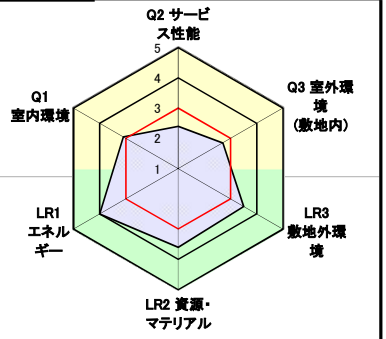
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

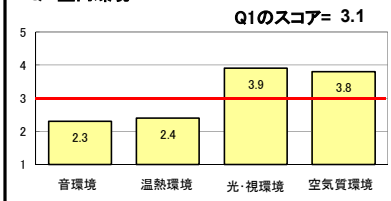
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



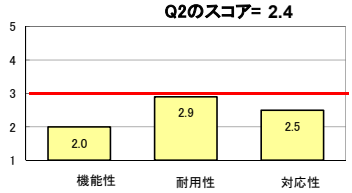
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.8

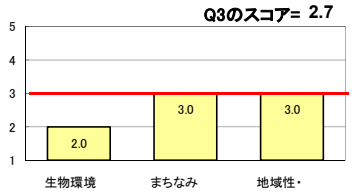
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.4

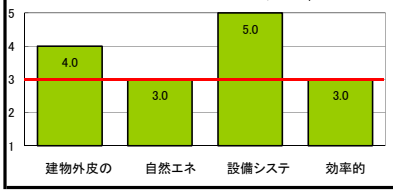


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

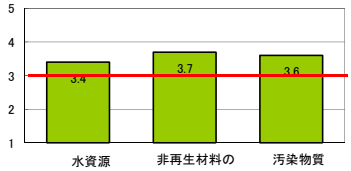


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.7

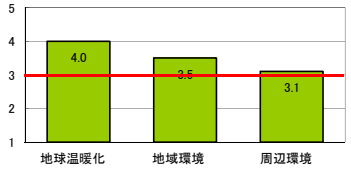
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.6



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.5



3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.0

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

22.1 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

3.3

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。
①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数＝ 中高木の樹冠の水平投影面積＋低木・地被等の植栽面積 / 敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた ×100

建物緑化指数＝ 屋上緑化面積＋壁面緑化面積 / 建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積) ×100

CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き

(仮称)meLiV太田川新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部 評価点	建物全体・共用部 評価点	建物全体・共用部 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									2.8
Q1 室内環境					0.40			-	3.1
1 音環境			2.1	2.0	0.15	2.2	2.3	1.00	2.3
1.1 室内騒音レベル			3.0	3.0	0.50		3.0	0.50	
1.2 遮音			2.5	1.0	0.50		1.7	0.50	
1 開口部遮音性能				1.0	1.00		1.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	-		2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-		1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-		3.0	0.20	
1.3 吸音					-			-	
2 温熱環境			2.3	1.0	0.35	2.5	2.5	1.00	2.4
2.1 室温制御			3.0	1.0	1.00	3.3	3.3	0.50	
1 室温			3.0	-	-		3.0	0.63	
2 外皮性能		品確法等級4相当	3.0	1.0	1.00		4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性					-			-	
2.2 湿度制御			3.0	-	-		3.0	0.20	
2.3 空調方式			3.0	-	-		1.0	0.30	
3 光・視環境			3.2	2.9	0.25	4.0	4.0	1.00	3.9
3.1 昼光利用			3.2	3.0	0.30	4.0	4.0	0.50	
1 昼光率		住居部:2.80%	3.0	-	-		5.0	0.50	
2 方位別開口					-		3.0	0.30	
3 昼光利用設備			3.0	3.0	1.00		3.0	0.20	
3.2 グレア対策			3.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.50	
1 昼光制御		住居部は、カーテン＋庇(バルコニー)にて昼光制御	3.0	2.0	1.00		4.0	1.00	
3.3 照度			3.0	1.0	0.15		-	-	
3.4 照明制御		共用部の照明をタイマーにて自動制御	3.0	5.0	0.25		-	-	
4 空気質環境			3.2	3.6	0.25	3.8	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策			3.3	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用	3.0	4.0	1.00		4.0	1.00	
4.2 換気			3.4	3.0	0.40	3.6	3.6	0.38	
1 換気量			3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
2 自然換気性能		居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保	3.0		-		5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	3.0	0.50		3.0	0.33	
4.3 運用管理					-			-	
1 CO_2の監視			3.0		-			-	
2 喫煙の制御			3.0		-			-	
Q2 サービス性能				–	0.30		-	-	2.4
1 機能性			2.3	2.4	0.40	2.0	2.0	1.00	2.0
1.1 機能性・使いやすさ			3.1	3.0	0.40	2.0	2.0	0.60	
1 広さ・収納性			3.0		-			-	
2 高度情報通信設備対応			3.0		-		2.0	1.00	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	3.0	1.00			-	
1.2 心理性・快適性			2.3	1.0	0.30	2.0	2.0	0.40	
1 広さ感・景観　(天井高)			3.0		-		3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			3.0		-			-	
3 内装計画			3.0	1.0	1.00		1.0	0.50	
1.3 維持管理			3.3	3.0	0.30			-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	3.0	0.50			-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	3.0	0.50			-	
2 耐用性・信頼性			2.3	2.9	0.31			-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.3	3.0	0.48			-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80			-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20			-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.3	2.9	0.33			-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23			-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			2.0	0.23			-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		住:壁)20年(ビニルクロス貼り)、天井)20年(ビニルクロス貼り)、床)20年(ビニル床シート貼り)	3.0	4.0	0.09			-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08			-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:塩ビライニング鋼管(B)、排水:耐火二層管、E不使用		5.0	0.15			-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	2.0	0.23			-	
2.4 信頼性			3.3	2.8	0.19			-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20			-	
2 給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.20			-	
3 電気設備	②		3.0	3.0	0.20			-	
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20			-	
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20			-	

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	2.5	2.5	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり	②		-	-	-	2.0	2.0	0.50	
1 階高のゆとり			-	-	-		2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			0.0	-	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00			-	
1 空調配管の更新性			3.0	3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境（敷地内）				–	0.30		-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30			-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30			-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	3.7
LR1 エネルギー				–	0.40		-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		品確法等級4相当	3.0	4.0	0.33			-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17			-	3.0
3 設備システムの高効率化		節湯水栓、LED照明の採用	5.0	5.0	0.33			-	5.0
4 効率的運用			0.4	3.0	0.17			-	3.0
集合住宅以外の評価					-			-	
4.1 モニタリング					-			-	
4.2 運用管理体制					-			-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30		-	-	3.6
1 水資源保護			0.4	3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水		節湯水栓、節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				-	-			-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.7	0.63			-	3.7
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	–		3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	集成材(キッチンカウンター)、タイル（床）、パーティクルボード（内装材）	3.0	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	内装が乾式工法で分別が容易 PS・天井内配管により設備との錯綜を回避	3.0	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.8	4.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤（断熱材等）		発泡断熱材はﾉﾝﾌﾛﾝ製品を採用		5.0	0.50			-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境				–	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	①	LCCO2排出量を参照値より抑制		4.0	0.33			-	4.0
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33			-	3.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善		風環境を把握している、隣棟間隔指数Rwが1.63、地表面対策面積率が30.31%等		4.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.3	3.0	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制	独自	適切な駐車、駐輪場の確保、複数の出入り口の確保		4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40			-	
1 騒音	独自			3.0	1.00			-	
2 振動	独自			-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害ﾁｪｯｸﾘｽﾄの一部を満たす、広告物照明がない		4.0	0.70			-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート　実施設計段階

(仮称)meLiV太田川新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:22.07%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	－	なし
Q3-3.1 Ⅰ 2)	地域性のある材料の使用	0.0	－	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用
重点項目スコア＝ (評価点×全体に対する重み)の総和 / 重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■　環境設計の配慮事項

■建物名称　（仮称）meLiV太田川新築コ

計画上の配慮事項	
総合	壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造を採用することで、木製型枠をほとんど使用せず、在来工法に比べ産業廃棄物の排出を減量化できCO2の削減に貢献できます。また周辺環境にやさしく、低騒音、低振動で粉塵も少なく、工期も短い工法となっています。
Q1 室内環境	住戸の窓には、複層ｶﾞﾗｽを採用し、外部に面する屋根・壁・床に十分な断熱をするなど、建物の熱負荷低減に配慮した。
Q2 サービス性能	壁式構造とする事で、室内に柱型や構造梁が出てこない為、空間を自由に使える建物となっています。
Q3 室外環境（敷地内）	周辺の住宅地に配慮した計画とし、、可能な限り植栽を設け、ゆとりと潤いのある空間とした。
LR1 エネルギー	複層ｶﾞﾗｽを採用し熱負荷低減に配慮した。またLED照明及び高効率給湯器を一部採用によりエネルギーの削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	断熱材にﾉﾝﾌﾛﾝ（A種）を採用する事で地球環境に配慮した。またPC工場では鋼製型枠を使用し、現場では木製型枠をほとんど使用しない為、熱帯雨林の保護に貢献しています。
LR3 敷地外環境	LCCO2の排出を参照値より抑制している。
その他	